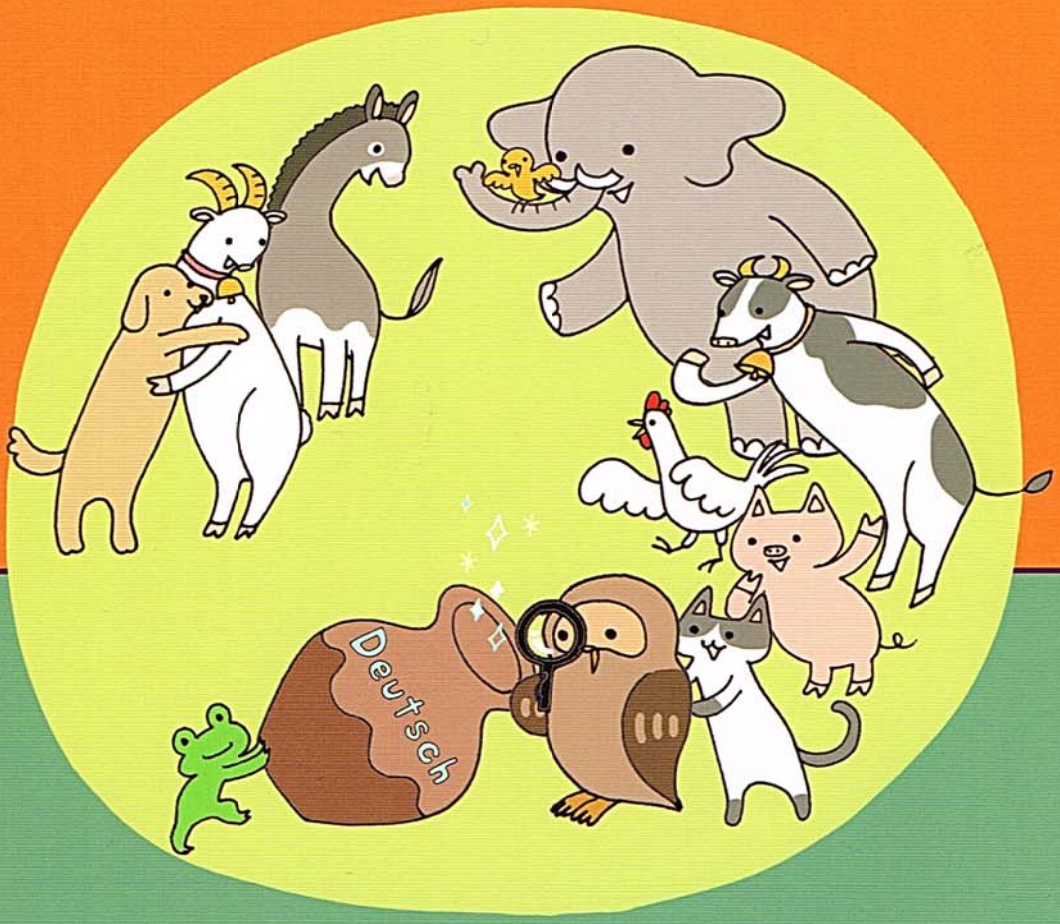
Deutsch
unter der Lupe

Masatoshi TANAKA　Tomoya TSUTSUI



DOGAKUSHA

はじめに

本書は、初めてドイツ語を学習する方々を対象にしています。本書の最大の特徴は、各課の冒頭に設けた「読んでみよう」を通じて、「学習者が、自らの語感でドイツ語文法を考える」というコンセプトにあります。そこでは、初級学習者ゆえの困難さとともに、初めてドイツ語に触れるからこそ、さまざまな発想から多くの発見が見いだされることでしょう。まるで未知の世界に飛び込んだ探検家よろしく、語感のルーペを片手にドイツ語という謎を解き明かす感覚です。その際、各課に登場する動物たちが、文法解明のヒントを与えてくれます。

また、文法解説ページでは、まさしくルーペのイラストを配して「考えてみよう」のコーナーとのつながりを図り、模範解答を示しながら、学習者をいわば「ドイツ語文法のつぼ」へと導きます。その際、学習者に対する視覚的な効果を優先してなるべく説明文を少なくし、学習者が見て考えることで、「楽しく学びながらドイツ語が見えてくる」といった学習効果を目指しています。

各課の６つの特色

１．**読んでみよう**: 冒頭に設けたキーフレーズです。まずは、とにかく読んでみます。ここは、「考えてみよう」のコーナーと連動します。

２．**考えてみよう**:キーフレーズを観察することで、みなさんがドイツ語のしくみを発見してみてください。

３．**話してみよう**: 文法解説の前に、簡単に内容を理解しながら、ペアで読む練習をします。ここでは、主に「読んでみよう」以外の重要フレーズが用いられます。また、会話文において、各課で扱う文法項目の範囲を超えた文法用語が登場した場合には、❓ のアイコンを付した上で、添付の「文法用語編」で説明しています。

４．**Übung**: 主にコミュニケーション型の練習問題です。課題には、文法解説を確認した後に取り組んだ方が効果的なものも含まれます。巻末の「対話練習用単語集（切り取り式）」を最大限に利用してください。

５．**ドイツ語文法のつぼ**: 文法解説です。ただし、教室では、担当の先生方の独自の切り口による説明がみなさんに届けられるよう、詳しい説明はあえて控えています。詳しい文法解説は、内容に応じて、添付の「文法用語編」で補っています。

６．**練習問題**: 記述式の練習です。主に文法事項の定着を図ります。

ドイツ語の文法体系をできるだけイメージとして捉え、そのイメージがどんどん膨らむことで、さらにドイツ語の応用が身につき、みなさんがみるみるドイツ語の力を伸ばしていくことを期待します。

2013年　春　　著者

もくじ

アルファベート …… 7

発音 …… 8

Lektion 1 Am Eingang der Sprachschule

動詞（現在人称変化①・sein / haben） …… 14

Lektion 2 Nach dem Sprachunterricht

名詞（不定冠詞・定冠詞・否定冠詞） …… 18

Lektion 3 Auf dem Weg zur Mensa

名詞（冠詞類・代名詞） …… 22

Lektion 4 In der Mensa

前置詞 …… 26

Lektion 5 Im Café

動詞（現在人称変化②・再帰動詞） …… 30

Lektion 6 Auf dem Rückweg zur Sprachschule

動詞（話法の助動詞・分離動詞）……34

Lektion 7 Vor einem Krankenhaus

動詞（３基本形・過去形・完了形）……38

Lektion 8 In der Nähe der Sprachschule

動詞（werden・受動態・未来形）……42

Lektion 9 Auf dem Weg zum Studentenwohnheim von Toshiya

接続詞（副文）……46

Lektion 10 In der Küche des Studentenwohnheims von Toshiya

動詞（zu 不定詞）、名詞（関係代名詞）……50

Lektion 11 Im Zimmer des Studentenwohnheims von Toshiya

動詞（命令形・接続法）……54

単語集……58

不規則動詞変化表……66

Lektion 1　動詞（現在人称変化 ①・sein / haben）

13 読んでみよう

Woher kommen Sie? ―Ich komme aus Japan.
ご出身はどちらですか？　―日本から来ました。

Kommst du aus Berlin? ―Nein, ich komme nicht aus Berlin.
Aus Berlin kommt Peter.
ベルリンから来ているの？　―ううん、私は違うよ。ベルリン出身はペーターだよ。

考えてみよう

上の文をしっかり読んで気が付いた点をメモし、「**あなたの文法**」を考えてみよう。

例えば komm- に注目すると？

piep piep

話してみよう

<Um 9 Uhr> Am Eingang der Sprachschule　〈9時〉語学学校の入口で

14
15

Hallo.

Hallo.

wie どのように

Wie heißt du?

heißen（~という）名前である

Ich heiße Toshiya Kurokawa.

Wie bitte?

mein 私の［所有冠詞］ ?　Vorname 名

T, O, S, H, I, Y, A: Toshiya ist mein Vorname und mein Familienname ist Kurokawa: K, U, R, O, K, A, W, A.

Familienname 姓　und そして

haben（~を）持っている　Unterricht 授業

Aha. Hast du jetzt Unterricht?

aha（間）ははあ、なるほど　jetzt 今

Ja, jetzt habe ich „Deutsche Grammatik“. Sind Sie hier Lehrerin?

sein ある、いる　hier ここで　Lehrerin 女性の教師（Lehrer 男性の教師）

oder あるいは

„DU“, oder!?

Okay, danke. Bist du Lehrerin hier?

danke ありがとう

Tutorin 女性のチューター（Tutor 男性のチューター）　kommen 来る

Nein, ich bin Tutorin.
Herr Weber, also der Lehrer, kommt gleich.

Herr/Frau ~さん<(英)Mr./Ms.>　gleich（副）すぐに、まもなく

Aha. Und wie heißen Sie?
Äh, wie heißt du?

Ich bin Eva, Eva Möller.
Also dann, tschüs!

tschüs バイバイ、またね

Tschüs! Bis dann!

?が出てきたら、別冊の文法用語編を見てね！

Wie bitte?　なんとおっしゃいましたか？／なんて言ったの？　Also dann.　じゃあね。　Bis dann.　じゃあ、また。

ドイツ語文法のつぼ

①動詞の現在人称変化

kommen も komme も「来ている、出身」という日本語に
対応しているようなので同じ動詞だと思う。
でも、語尾が違っている。
主語が変わると、語尾も変わるのかな？

◆動詞の原形（不定詞） … 語幹–en

komm–en

◆主語に応じて、語幹の後ろに以下のような語尾をつける（定動詞）。

私は	ich	語幹–e	komm–e	私たちは	wir	語幹–en	komm–en
君は	du	語幹–st	komm–st	君たちは	ihr	語幹–t	komm–t
彼は / 彼女は	er / sie	語幹–t	komm–t	彼らは	sie	語幹–en	komm–en

あなた(がた)は　Sie　語幹–en　komm–en

定形では、語幹は変化せず、語尾だけが変化するのが原則。

②定動詞の位置

動詞が文の２番目に来ているのが目立つ。
疑問詞を文の先頭に置くのは英語と同じでよいらしい。
でも、主語でも疑問詞でもないものが先頭に来ているのは
何だろう？

◆平叙文　主語 ＋ 定動詞

または：主題 ＋ 定動詞 ＋ 主語

◆疑問文　定動詞 ＋ 主語

または：疑問詞 ＋ 定動詞 ＋ 主語

主語と定動詞は隣りあう!

田中雅敏・筒井友弥 著

Deutsch unter der Lupe

みるみるドイツ語

付 録

１．追加練習ドリル…… 1

２．文法用語集…… 23

３．単語集…… 45

同学社

Lektion 1

練習 ( )に**人称代名詞**を、__に**動詞の定形**を入れて、日本語に合うドイツ語の文を完成させよう。
※[ ]内の不定形の動詞を参照すること。

(1) 私は宿題をする。 [machen]

( ) _____ Hausaufgaben.

(2) 彼女はピアノを弾く。 [spielen]

( ) _____ gern Klavier.

(3) あなたはビールを飲むのが好き(gern)ですか。 [trinken]

_____ ( ) gern Bier?

(4) 私は踊るのがとても上手い。 [tanzen]

( ) _____ sehr gut.

(5) 君たちは今どこへ行くの？ [gehen]

Wohin _____ ( ) jetzt?

(6) 彼はザビーネ(Sabine)を愛している。 [lieben]

( ) _____ Sabine.

(7) 彼女はミュラー婦人(Frau Müller)を見つける。 [finden]

( ) _____ Frau Müller.

(8) 彼女は京都で働いている。 [arbeiten]

( ) _____ in Kyoto.

(9) 彼と私は野菜を買う。 [kaufen]

( ) und ( ) _____ Gemüse.

(10) 君は明日ブレーメンに旅行するの？ [reisen]

_____ ( ) morgen nach Bremen?

※見出し語は50音順。説明文中の*印は、その用語が見出し語として挙げられていることを示す。

アクセント

語の中の音節*のうちのひとつを強く読むこと。強勢（きょうせい）とも言う。

◆ドイツ語単語のアクセントは原則として先頭にある

ドイツ語の単語では先頭（第一音節）を強く読むのが原則で、外来語由来の語のアクセントの位置は後ろにずれることが多い。

◆強く読む音節の母音は、長さも長くなる

アクセントのある母音は長母音になる。ただし、後ろに子音が2つ以上続く場合には、アクセントがあっても短母音となる。アクセントがない母音も短い。

【例】M**u**t **ムー**ト – M**u**tter **ムッ**タァ　Jap**a**nisch ヤ**パー**ニッシュ

◆単語の先頭にアクセントのない母音が２つ連続しない

アクセントは先頭にあるのが原則だが、非分離動詞*の前つづりなど、それ自体にアクセントが置けないものがある場合には、アクセントのない母音が2つ連続しないことになっている。

【例】 bekommen の過去分詞 → bekommen (~~ge~~bekommen)

studieren の過去分詞 → studiert (~~ge~~studiert)

音節（おんせつ）

単語をゆっくり発音するときに自然に区切れ目となる部分ごとに単語を分けたもの。

◆子音と母音

日本語の mo·mo·no·ki「桃の木」のように、子音と母音一つずつで音節を作るものが分かりやすいが、中には母音一つだけで音節を作るものや子音が2つ以上ある音節もある。

【例】母音一つだけの音節　O·r**a**n·ge　オ**ラ**ンジュ

子音が2つ以上集まっている音節　Str**a**·ße　シュト**ラ**ーセ

◆音節には必ず母音が１つずつある

母音は途中で音を遮られることなく響くが、子音は何らかの形で音の遮りがあるため、子音だけで音節は作れない。

格（かく）

文の中で名詞や代名詞が担う主語や目的語などの役目のこと。

◆冠詞や形容詞など、名詞を規定するものが語形変化する（▶表 14 15 16 ）

冠詞や形容詞の語形変化により、1格（～が）、2格（～の）、3格（～に）、4格（～を）が示される。

キリトリ線

Lektion 1 Übung 1　S. 15

Anglistik 英語英文学研究
Betriebswirtschaftslehre (BWL) 経営経済学
Biologie 生物学
Chemie 化学
Germanistik ドイツ語ドイツ文学研究
Geschichte 歴史学
Informatik 情報学
Japanologie 日本学
Jura 法学
Kunst 芸術
Landwirtschaftslehre 農学
Mathematik / Mathe (短縮形) 数学
Medizin 医学
Musik 音楽
Volkswirtschaftslehre (VWL) 国民経済学
Pädagogik 教育学
Physik 物理学
Politologie 政治学
Psychologie 心理学
Soziologie 社会学

Baseball 野球
Basketball バスケットボール
Federball バドミントン
Fußball サッカー
Handball ハンドボール
Tennis テニス
　Tischtennis 卓球
Volleyball バレーボール
Cello チェロ
Flöte フルート
Geige ヴァイオリン
Gitarre ギター
Harfe ハープ
Klavier ピアノ
Klarinette クラリネット
Mundharmonika ハーモニカ
Orgel オルガン
Posaune トロンボーン
Saxophon サクソフォン
Trompete トランペット

piep piep

キリトリ線

Lektion 2 Übung 4　S. 19

r. Bleistift (-e) 鉛筆
r. CD-Spieler (-) シーディープレイヤー
r. Gürtel (-) ベルト
r. Radiergummi (-s) 消しゴム
r. Regenschirm (-e) 傘
r. Rucksack (..säcke) リュックサック
e. Batterie (-n) 電池
e. DVD (-s) ディーヴィディー
e. Hose (-n) ズボン
e. Kamera (-s) カメラ
e. Kette (-n) ネックレス
e. Zeitung (-en) 新聞
s. Brillenetui (-s) 眼鏡ケース
s. Lehrbuch (..bücher) 教科書
s. Mäppchen (-) 筆入れ
s. Portmonee (-s) 財布
s. Taschentuch (..tücher) ハンカチ
s. T-Shirt (-s) シャツ
pl./e. Jeans ジーンズ
pl. Schuhe (r. Schuh) くつ
pl. Stiefel (r. Stiefel) ブーツ

r. = der 男 男性名詞
e. = die 女 女性名詞
s. = das 中 中性名詞
pl. = plural 複 複数形
( ) = 複数形語尾
　または単数形

Lektion 2 Übung 5　S. 19

alt 古い
altmodisch 古風な
billig 安い
cool かっこいい
fantastisch すばらしい
gut 良い
hübsch 可愛らしい
interessant 興味をひく
langweillig 退屈な
neu 新しい
nützlich 役に立つ
praktisch 実用的な
preiswert 買い得の
sauber 清潔な
schick 洒落た
schlecht 悪い
schmutzig 汚れた
schön きれいな
super すごい
teuer 高い
toll すてきな

miau miau

田中雅敏・筒井友弥 著

Deutsch unter der Lupe

みるみるドイツ語

教授用資料

同学社

はじめに

本書のねらい

本書は，テキストと CD を用いてドイツ語の最初歩を総合的に学ぶことをめざしています。11 課構成で，各課は 4 頁で完結するように編まれていますので，学期のはじめのガイダンスや学期途中の中間テスト，学期末の期末テストに充てる回数を確保しつつ，週 1 回の授業で 1 年間（全 30 回）かけて学ぶことができます。

人間の集中力の持続時間は，諸説ありますが，平均して 30～50 分間ぐらいであると言われており，90 分授業の途中でドイツ事情（Landeskunde）やドイツ語圏発信の音楽やテレビ番組などを視聴しても，あるいは，授業の冒頭に単語テストなどを実施しても，無理なく，時間的にもゆとりをもって進んでいただけます。同様に，週 2 回の授業であれば半年間で終えることもできるでしょう。

本書の最大の特徴は，学習者がルーペを片手に「ドイツ語」という未知の言語を自分の語感を頼りに解明していく，という「学習者自らによる気づき」の学習を促すコンセプトにあります。各課のはじめには，その課で学習する文法項目を盛り込んだ短い例文が示され，学習者は各課を担当する動物たちのつぶやきをヒントに，少しずつドイツ語の文構造や文法のしくみに気づいていきます。情報をただ受動的に受け取るだけではなく，自分たちで物事を考える訓練をドイツ語学習の中にも取り入れてみようという試みです。

また，本書は，パートナー練習にも重点を置いています。学習者には，ロールプレイ形式の能動的な練習を通じて，「学習した知識の中で十分に伝えられることがある」という成功体験を積み上げてもらいます。パートナー練習では，正答が 1 つというわけではありませんから，「そういう言いかたでも十分に通じるけど，より自然なドイツ語らしい表現はこうだよ」と，積極的にドイツ語で情報発信する自信をもたせるような指導を行います。学習者は，自己紹介や家族の紹介からはじまり，徐々に複雑な内容をドイツ語で表現できるようになるにつれて，「もっとこういうことも伝えてみたい」「こういうことを伝えるにはどのような文の組み立てをすれば良いかな」といった発展的な学習意欲がかき立てられることでしょう。

その一方で，学習者からは，コミュニカティブな練習も楽しいが，文法定着のための練習問題もたくさん解きたいという声も聞かれます。そこで，付録として追加練習ドリルを用意しました。いわゆるドリル形式の問題を多数用意し

ましたので，文法問題を数多く解きたいという要望に応えられるものとなっています。先生方には，時間が余ったときの追加練習課題として，あるいは，各課が終わるたびの宿題として課していただけます。また，なじみのないドイツ語文法に特有の用語に慣れてもらうよう，あるいは，文法用語に対するアレルギーを少しでも軽減できるよう，「文法用語集」も用意しました。

本書の登場人物と舞台について

登場人物（すべて架空の人物です）：

・黒川敏弥（Toshiya Kurokawa）
　年齢：20 歳／国籍：日本／出身：広島県／身分：大学 2 年次生（留学生）

・Eva Möller
　年齢：21 歳／国籍：ドイツ／出身：フランクフルト・アム・マイン／
　身分：大学生（チューター）

舞台設定：

敏弥がドイツに渡って，学生寮での生活が一週間ほど過ぎたころ，語学学校初日の午前 9 時，留学生を世話するチューターの Eva に出会う。同日午前 11 時，二人は授業後に再び会話。11 時半，学生食堂へ向かい，12 時に学生食堂で昼食をとる。昼食後，12 時半にカフェで休憩し，13 時，午後の授業に出るため語学学校まで散歩。そのとき，この日の夜に敏弥の学生寮で日本食を賄うと約束。13 時半，道すがら何気に病院の前を通りかかり，14 時に語学学校に戻る。17 時，二人で敏弥の学生寮に向かい，19 時に学生寮のキッチンで夕食。20 時，学生寮の敏弥の部屋で・・・

各課の構成

本書は 11 課構成です。各課は 4 頁で完結します。最初の見開き 2 頁が「導入」及び「会話・作文篇」で，後半の見開き 2 頁が「文法篇」です。「本書のねらい」のところにも書かれているとおり，本書では「学習者による文法の要点の気づき」のアプローチを取り入れていますので，文法解説は後半に掲載しています。そのため，「会話・作文篇」の練習の中には，「文法篇」での解説を確認してから取り組んだほうが効果的なものも含まれます。

読んでみよう

その課で扱う文法項目を端的に含む短い文例を挙げています。「考えてみよう」のコーナーと連動して「文法の気づき」を促すもので，「文法篇」へとつながる

部分です。以下の「話してみよう」から重要表現（キーセンテンス）を抽出したものにはなっていません。

考えてみよう

学習者には,「読んでみよう」の文例を注意深く観察することで，文法の決まりごと（ルールや規則性）のようなものがないかを検討させます。その際，特にどのような点に着目すべきかを，各課を担当する動物たちがつぶやいてくれます。このパートは宿題として課しておき，次の授業で意見を挙げさせることもできるでしょう。ただし，このパートの模範解答ともいえるものは，以下の「ドイツ語文法のつぼ」のところに出てきますので，先取りしてそちらに目を通してしまう学習者もいるかもしれません。「文法の気づき」は，必ずしもねらい通りに機能するとは限りませんが，物事を観察して分析する意識づけとして有効です。

話してみよう

文法を詳細に学ぶ前に，簡単に内容を理解しながらペアで読む練習をします。対話テキストを通して，自分の趣味や家族構成，一日の予定，体調など，身の回りのことや日常の過ごし方をドイツ語で表現するときに困らないだけの語彙・表現を学びます。

CD を聞いて，発音を確認し，文全体の意味を把握します。CD を聞かせる前に，あらかじめ CD に頼らずにペアで対話を読ませてみる練習も効果的です。音声を聞いてそれを反復するだけの音読よりも，自ら考えて発音した単語は印象にも残りやすいです。学習済みのドイツ語の発音ルールを駆使すれば，知らない単語や文でも読むことができるということを体感させてください。そうすれば，自分の発音能力にも自信を持つことができ,「ドイツ語で自分の思っていることをもっと相手に伝えたい」という，ドイツ語学習のさらなる意欲をかきたてるのに役立つでしょう。

また Toshiya のパートは，ネイティブスピーカーの他，日本人による吹き込みも行っています。全体的に，ドイツ人によるナチュラルスピードの吹き込みよりも日本人の音声のほうがゆっくり吹き込んでありますので，適宜使い分けてください。CD のトラック番号は，日本人による吹き込みのほうが先で，それに続いてネイティブスピーカーによる吹き込みが収録されています。

発音する際は，単調に読むのではなく，それぞれの文において特に重要な情報を強く読む（アクセントを置く）など，抑揚をつける読みかたを訓練します。全文を日本語に訳して，それを台本に，ペアでロールプレイさせ，日本語で読

んだ際に自分が強く読んだ単語にドイツ語でもアクセントを置いて読んでみることを意識させるなどの練習方法もあります。このようにして，情報の重要度に応じて抑揚をつけリズミカルに読む技術を身につけます。

新出単語は，それぞれの吹き出しの枠外に記してあります。品詞の区別として，動詞は赤色，名詞は藍色（濃い青色），その他の品詞は黒色としてあります。名詞には性別の記号として 男 女 中 複 を付していますが，第 1 課だけは名詞に文法上の性の区別があることが未導入ですので，記号は付していません。

なお，各課で扱う文法項目の範囲を超えた文法用語が登場するところには ? のアイコンを付した上で，別冊の「文法用語集」で説明しています。

Übung

主にコミュニケーション型の練習問題です。文法確認のための練習問題は以下の「ドイツ語文法のつぼ」の後の「練習問題」に用意しています。

・パートナー練習

のアイコンを付しています。

「読んでみよう」や「話してみよう」で扱った文例を，自分たちに即した内容に応用させ，パートナーと情報の発信・受信を練習します。巻末の「対話練習用単語集」にさまざまな単語が掲載されていますので，そちらを参照しながら，練習を発展させてください。

・記述式練習

のアイコンを付しています。

学習した語彙や表現の習熟度を確認するため，線で結んだり，並び替えをしたり，ドイツ語の問いに答える独作文を書いたり，独文和訳をしたりする多様な練習を用意しています。

・聞き取り練習

のアイコンを付しています。

ドイツ語らしいアクセントを確認するための練習です。CD を聞いたあと反復する練習のほか，CD と同時に音読するシャドーイングも効果的です。自分の発音を瞬時に確認することができます。

ドイツ語文法のつぼ

「考えてみよう」のところでチャレンジした「文法の気づき」に対して，解説を行うパートです。以下の「練習問題」と合わせて，これらの見開き 2 頁は「文法篇」です。「考えてみよう」のところに用意した罫線をそのまま使うことによって，連動していることを表しています。罫線部分には，その課で扱う文法事

項へ誘導できるよう，気づいてほしかった点を模範解答として挙げています。ここでは，模式的な図や表を中心とした文法事項の提示にとどめ，視覚的に要点がわかるように工夫しています。文字情報での文法解説を極力減らすことにより，学習者が抱きがちな視覚的な圧迫感を減らせる効果が期待でき，また，ビジュアル化することで，文法項目間の横断的なつながりにも気が付いてもらえることが期待できます。

なお，特に重要な点については「つぼ」がつぶやいています。また，少し発展的な項目や，紙幅の都合で提示しきれていない項目は，見開き右頁の上部に付箋紙でメモ書きとして示しています。教室では担当の先生方の語り口で文法を解説してください。自然なドイツ語を運用するためには，どの課においても未学習の文法項目が含まれるのは常であり，学生からその課で学習することになっている文法項目以外の事項について質問が出た場合には，簡単な説明にとどめ，どの課で詳しくその事項を学習するのかを伝えてください。また，著者による文法解説は，別冊の「文法用語集」をご覧ください。

練習問題

文法事項の定着を図るための練習です。ドイツ語技能検定試験（独検）に挑戦するために文法事項の習熟度を確認するなどの必要性から，学習者にはいわゆる伝統的な文法ドリルを数多く解きたいという希望があることをよく耳にします。そのため，文法練習問題は敢えて記述式にしています。また，別冊には，追加の練習ドリルも豊富に用意していますので，必要に応じて課してください。

オンライン学習支援サイトについて

本書を採用してくださった先生方には「みるみるドイツ語オンライン」のサイト（http://www.miru2.net）内に「教員権限」でログインしていただき，独自のコンテンツ（ブログ，チャット，フォーラム（掲示板），wiki，用語集，練習ドリル，テスト機能など）を利用していただけます。その際は，先生ごとに「コース」を作成していただけますので，ご担当のクラスの受講生のみなさんを「一般ユーザ」として登録することで，先生が作成されたコンテンツを受講生に利用していただけます。また，汎用のコンテンツも開設していますので，先生ごとのコース作成をしていただかなくても，「みるみるドイツ語オンライン」上にあるコンテンツには自由に参加していただけます。「教員権限」の登録，その他，不明な点がありましたらメールアドレス「info@miru2.net」にて対応させていただきます。